

ふじみ町

公民館報

〒399-0211

長野県諏訪郡富士見町富士見 3597-1

コミュニティ・プラザ内 富士見町公民館

ホームページ：https://www.town.fujimi.lg.jp/site/kouminkan/

Eメール：kouminkan@town.fujimi.lg.jp

No. 734

令和6年 10/1

発行 富士見町公民館

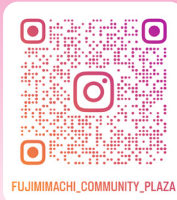
編集 公民館報編集委員会

TEL 0266(62)7900

FAX 0266(62)7611



公民館
Instagram



FUJIMIMACHI_COMMUNITY_PLAZA

コミ・プラ マスコットキャラクター
『ホッホ君』



井戸尻考古館開館式の様子
(1974年4月30日)

現在の井戸尻考古館
(2024年9月)



井戸尻考古館 建館から半世紀
これまでの50年とこれから50年

高原晴雨

富士見町でもクマとの遭遇が他人事ではなくなってきた。

私はクマに対して過剰に反応するクセがある。実家がクマのよく出るところであつたという影響があるのかもしれないが、なぜか子どもの頃からクマと遭遇した際のノウハウ本を読み漁っている。

15年ほど前に知床半島に行った際、自然公園の散策をする前にネイチャーガイドの方から入念にクマ（ヒグマ）に遭遇した際のレクチャーを受けた。「ついに私の生涯においてクマと遭遇する日が来たか！」と意気込んで自然公園の中に入ってしまった。散策中、景観を楽しむよりもクマの出没に対して集中し、四方八方をクマはいないかとキョロキョロ見渡し、歩いている間ひたすらクマのことを警戒し続けた。あんなに景色を見に行きたかった知床半島の思い出は、クマかと見間違えた切り株や倒木の数々で埋め尽くされた。

クマとニアミスをしたことが何度かある。奥多摩での山歩きでは帰路で往路にはなかったクマの糞を見つけた。又、先とは別の機会に北海道の二風谷近くの山奥に行ったら、クマに食いちぎられたばかりと思われる新鮮かつ大きな鹿の足が道の真ん中に落ちていた。私はクマのことを意識し続けて生きているが、今のところクマに遭ったことがない。

人が注意を注いだことにより、起こると憂いていた事象が起らない、もしくは起こったとしても被害が小規模に食い止められるといったことが研究されているそう。量子脳理論というものに関連するらしい。もしかしたらクマと遭遇しないのはクマへの意識が余りにも強すぎる故なのだろうか。

このようなことが一般常識的に活用される日が来たら面白いと思いつつ、「クマに遭遇しないで済みますように！」と、人もクマも安全に過ごせる日々を願う。

後藤万輝

目次	P2～3 【特集】
	P4 図書館・博物館コーナー

井戸尻考古館 建館50周年

富士見町内から出土する遺跡を元に、太古の歴史を見つめ続けて来た井戸尻考古館。国の重要文化財や県宝を有し、考古学史上の著名な研究成果として残っています。町外から訪れるファンも多く、富士見町の魅力の一つとなっています。町のアイデンティティとも言える縄文時代の歴史文化を調査し、研究してきた考古館は、今年で建館50周年を迎えます。半世紀という節目を迎えた井戸尻考古館のこれまでの歩みと、これからの歩みについて取材しました。

井戸尻考古館建館ヒストリー

① 井戸尻考古館の草分け期

井戸尻考古館の始まりは、昭和34年に、富士見町役場境支所（現在の信濃境公民館）の一角を間借りし開所したことが出発でした。当時の展示は、地元有志で結成された井戸尻遺跡保存会によって発掘調査した際の出土品でした。更にこの翌年、翌々年と、二度に渡る曾利遺跡（現在の井戸尻考古館前の芝生あたり）の発掘調査が行われ、縄文時代中期の貴重な資料が多く出土したことで、全国的に重要な遺跡

として知られることになりました。

その後、境支所が手狭になると同時に、開所時より施設の耐火性が問題視されていたこともあり、町で収蔵展示施設の建設を検討することとなりました。複数の候補地の中で、最終的に曾利遺跡がある土地を買い上げ建設することになりました。この土地は重要な遺跡でもあったため、その上に建物を建てるのは土地選定の都合上、苦渋の決断だったようです。保存の観点から、発掘調査は最小限の範囲に留められました。

② 井戸尻考古館建設

初めに、発掘資料を収蔵する収蔵庫の建設からスタートしました。この整地工事に先立ち、昭和44年に実施された三次調査の発掘で、二四軒の住居址と一四基の土壇（墓址）が見つかり、調査されました。その三年後に考古館建設の目処がつかますが、道路の幅が2mと狭く、拡張する必要があったため、これに伴う発掘（四次調査）が行われました。この際、三軒の住居址、隣接する農地で二軒の住居址が発見され調査が行われました。

翌年、ようやく考古館建設地で五次調査に入ります。建坪五六〇㎡の広さがあったため、四ヶ月を費やす最も大規模な発掘調査となりました。この調

査では、三十軒の住居址と百基以上の土壇群が見つかりました。これら三次（五次調査で出土した資料が、現在の井戸尻考古館の展示資料の多くを占めています。この調査結果は、昭和53年に『曾利第三、四、五次発掘調査報告書』としてまとめられます。この報告書の中で、井戸尻考古館の初代館長を務めた武藤雄六さんは、「今回の調査での最大の収穫は、数多い遺構や遺物の発見でも、編年上の問題点の解明でも何でもなくて、この調査に参加した農家の主婦の皆さんが、埋蔵文化財の重要性に目覚めてくれたことであつた」と記しています。考古館の完成式典は昭和49年4月30日に行われ、5月1日から一般公開されています。



井戸尻考古館建設に先立つ発掘調査

③ 三つの大きな成果

建設が着手されてから考古館完成まで五年を費やしましたが、この工事に伴い実施された発掘調査とその研究を経て、大きな成果を上げることが出来ました。

一つ目は土器の年代基準である「井戸尻編年」の確立です。これを用いることで、土器の形や文様から新旧関係や年代を把握出来る様になりました。これは考古学史上、著名な研究の一つであり、改定されながら利用されています。

二つ目は「縄文農耕論」の確立です。出土した主要な石器群が「農具」であるという結論と、遺物から想定される文化的水準の高さから既に農耕が始まっていたと考え、農耕社会としての縄文時代像を描き出しました。

三つ目は「縄文図像論」です。土器の造形や文様を単なる装飾としてではなく意味のある図像として捉え、その象徴性を考えることで、縄文人の精神世界に迫ろうとした研究です。現在の井戸尻考古館の展示の柱となっていますが、当時は同人誌で語られるにとどまっていた。現在は民俗・民族学や文化人類学、神話学などと関わり合いながら、更なる研究が進められています。

また「井戸尻編年」「縄文農耕論」

は、考古学を勉強する上で必ず学ぶものとなっているそうです。

井戸尻考古館建館50周年特別展示

8月1日～11月24日まで

現在、館内では建館50周年を記念する特別展示を開催しています。学芸員の副島蔵人さんから解説いただき、展示の見どころをまとめました。

見どころ①

展示室に入って左手が展示のスタートとなります。本展示から、来館者の意見を参考に、解説文のパネルの文字を手書きから印字された大きな文字に一部変更し、文章も読みやすい内容になっています。また、今までの常設展示では、「編年展示」という年代が古いものから順番に陳列する展示形式でした。本展示では、当時の縄文人の生活模様に焦点を充て、どのような生活をしていたかが紹介されています。



展示のスタート

遺跡の残りが良いと言われている藤内遺跡の出土品を中心に、当時の生

活模様を見せています。例えば、当時の一軒の家に、どういうお鍋（土器）のセットがあったのか、どのような石器のセットを持っていたかを知ることができます。お鍋だけではなく、浅い鉢や椀があったりなど、食生活について伺い知ることも出来ます。



様々な形や文様の深鉢

見どころ②

次に、生活で使用されていた土器に付けられている模様には、どの様な意味があるかを紹介しています。井戸尻考古館の研究成果の一つ、縄文図像論も登場します。お墓に関係するものも展示されています。生きるということだけではなく、当時の人たちにとっての死とはどういうものだったかなど、縄文人の死生観を考える展示内容となっています。

見どころ③

展示室奥の壁面からは、現在も考古学の研究に用いられている井戸尻編年に合わせた編年展示を行ない、時期順に土器が並べられています。



井戸尻編年に合わせた展示

最後に、副島さんから建館50周年についての思いを伺いました。

「歴史のある井戸尻考古館が50周年を迎えたことは非常に感慨深いところです。諸先輩方や地元の方々から積み上げてきた50年を考えつつ、更に次の50年にどう繋いで行くかを考える年にしたいと思っています。また50周年を機に、是非、地元の方々にも、ご来館いただけると嬉しいですね。」

あとがき

これからの井戸尻考古館

新聞等で既に報道されていますが、井戸尻考古館新館建設の総事業が発表されました。2029年秋の

開館を目指し、2026年度から工事に着手する予定となっています。まさに考古館の新しい未来が見えるタイミングを迎えました。今回の取材を通し、井戸尻考古館建館の歴史を学ぶ中で、遺跡を愛し、その歴史的価値を尊重してきた地元の方々の存在が、考古館のスタートであったこと、また発掘調査に深く関与していることに感嘆しました。研究に勤しんで来られた歴代の職員の皆様によって半世紀の歩みを経た考古館が、富士見町で新たな歴史を紡いで行くことを期待したいと思います。

「取材協力」井戸尻考古館
「参考資料」建館50周年記念
ミニ企画展示「井戸尻考古館ができるまで」展示資料

建館50周年記念事業・関連イベント

●11月4日(月・祝) 13時～ 予約不要
音楽演奏「井戸尻遺跡」デーノタメ遺跡・音楽交流会」井戸尻史跡公園

●11月23日(土) 13時半～ 予約不要
座談会「集え、井戸尻を愛するものたちよ! みんなで語ろう。これまでの井戸尻これからの井戸尻」コミュニティ・プラザ大会議室

「収蔵品展」—富士見高原を訪れた文化人たちの足跡—

会期：11月1日（金）～12月27日（金）

高原のミュージアムは今年の11月に開館30周年を迎えます。

これを記念して、収蔵庫に大切に保管されている中から選りすぐりの資料を展示します。

【関連イベント】

●博物館講座「白林荘ツアー」

日時：11月3日（日・祝）午前9時～正午

申込：10月16日（水）10時～

定員：15名

●展示解説（学芸員による解説）

日時：12月1日（日）午前11時～正午

申込：不要

【申込・問合わせ】 高原のミュージアム ☎62-7930

図書館
博物館 コーナー

☎62-7930（図書館・博物館）

新着おすすめ Book

★電話・webまたはカウンターでご予約ください

『ナゾキ・ジパングHANABI』 青柳 碧人 著

日本文化が大好きで洞察力にすぐれた留学生ケビンと、学業はからっきししながら人望が厚い秀次は、獅子辰寮のルームメイト。六月の末、秀次の幼馴染・理沙の課題につき合っ

て、二人は銀座の刀剣専門店を訪れた。その後、店に居合わせた男の遺体が発見され、ケビンが容疑者に…!?

日本の名所名物を巡り、事件の謎を解く、本格ミステリー。

図書館

■開館時間／通 常・・・午前9時30分～午後6時

火曜日・・・午前9時30分～午後7時

■URL <https://www.town.fujimi.lg.jp/site/library1/>

白抜き・・・休館日 ★印・・・イベント実施日 □・・・20冊貸出

	日	月	火	水	木	金	土
10月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
11月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30



富士見町図書館HP

おはなし会（火曜日）

10月 1日 おはなしいろいろ

午前11時～

8日 虫のおはなし

15日 休館日

22日 動物のおはなし

29日 ハロウィン仮装・誕生会

おはなし会（土曜日）「ふじみ子どもの本の会」ほか

10月 5日 どうぶつのおはなし

午前11時～

12日 うんどうのおはなし

19日 実りの秋のおはなし

26日 英語のおはなし会

図書館イベント情報

●10月13日（日）図書館上映会

時 間：午前10時00分～11時45分

「ケアニン ～ここに咲く花～」

会 場：コミュニティ・プラザ 2階 AVホール

定 員：先着60名

申 込：不要 入場：無料

問合せ：富士見町図書館 ☎62-7930

としょかんめぐり スタンプラリー

10/31
まで!

八ヶ岳定住自立圏（北杜市・富士見町・原村）の
3エリアの図書館をまわって、スタンプを3つ集めると、
素敵なプレゼントがもらえます。

図書館を巡って、素敵な本と出会ってみませんか？

第23回

●赤彦祭記念短歌展 入選作品展

期間：10月5日（土）～10月20日（日）

第27回

●富士見高原詩のフォーラム 入賞作品展

期間：10月27日（日）～11月10日（日）

※入選・入賞された作品を高原のミュージアムにて展示しています。



博物館

■場 所 富士見町高原のミュージアム（コミ・プラ2階）
■開館時間 午前10時～午後5時（入館 午後4時30分まで）
■休 館 日 月曜日（月曜が祝日の場合は翌日）

■入館料 大人 300円、子ども150円
諏訪地域の小中学生は無料

⇒右の招待券を切り取ってお持ちください。
町内1家族まで無料にてご覧いただけます。

博物館企画展
優待券